

第2章 将来のまちの姿と取り組み施策








1 基本的な考え方

将来のまちの姿は、市民の皆様や事業者、行政がともに目指していく地下鉄沿線のまちの姿です。沿線のそれぞれの地区の個性や強み、地域の現状やまちづくり団体等の意見もふまえながら、みんなで共有するおおむね10年後の将来像として定めます。

将来のまちの姿に向けた取り組みを沿線のそれぞれの地区で進め、その取り組みを連携させていくことで、都市軸としての魅力や価値が創出され、「地下鉄がつなぐ“せんだい彩杜”～十字の都市軸が織りなす、杜の都の多彩なライフスタイル～」の実現につながっていきます。

本章では、地域特性などから設定した沿線地区について、それぞれの将来のまちの姿を示します。また、将来のまちの姿の実現に資する具体的な取り組みと目標時期も示し、地域主体のまちづくりや民間開発が着実に進むよう誘導していきます。

■本章で示している取り組み施策の凡例区分

	市が市民の取り組みを支援・誘導する施策
	市が事業者の取り組みを支援・誘導する施策
	市が実施・検討する施策
	2023（令和5）年度までに具体的な取り組みや検討を行う施策
	2026（令和8）年度までに具体的な取り組みや検討を行う施策
	2030（令和12）年度までに具体的な取り組みや検討を行う施策
	計画期間中、継続して取り組む施策

2

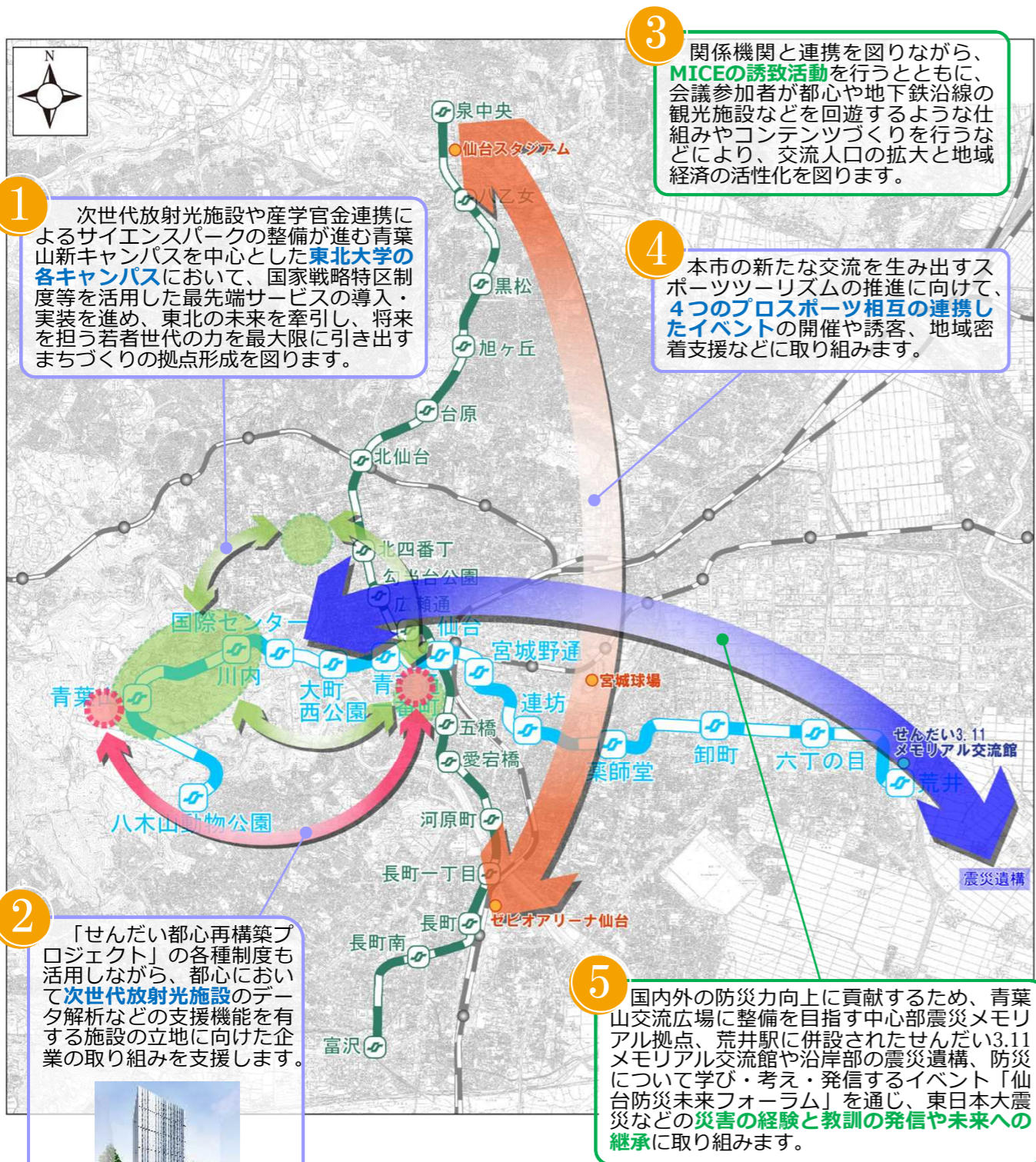
沿線の交流を促進する取り組み施策

選ばれる都市を実現するためには、新たな都市活動や交流を創出するとともに、駅ごとのそれぞれの地域特性を生かしたまちづくりを進め、それらを連携させながら本市の発展軸を創造していくことが重要です。

こうした考え方をもとにまちづくりに取り組んできた東西線沿線に対し、都市交通問題の解消を主な目的として35年前に開業した南北線の沿線においては、具体的なまちづくりの方針がない中、沿線に様々な地域資源が生まれ、駅周辺にはそれぞれ特徴を持ったまちが形成されています。

このような認識のもと、沿線のそれぞれの地区の個性（色）を深めるとともに、「駅と駅」、「まちとまち」をつなぐことによって沿線の魅力や価値を高め、多彩な活動の場として選ばれるまちの都市軸を形成していくため、東西線のみならず、南北線も含めた東西南北の地下鉄を介した地区間の交流促進に資する取り組みを推進していきます。

■沿線の交流を促進する取り組み施策（その1）



アーバンネット仙台中央ビル
提供：NTT都市開発株式会社

■沿線の交流を促進する取り組み施策（その2）

